

## ヨハネの手紙第一

### §2 救いに関する3つの検証(2:3-29)[その4]

#### 前回の復習

1. イエスがキリストであることを否定する「多くの反キリストたち」(偽教師、偽キリストたち)が現れていることで、今が「終わりの時」であることがわかる。
2. イエスがキリストであることを信じる者たちは、自分たちが救われているのだと確信することができる。なぜなら、そのような信仰は聖霊によって与えられるものだからである。
3. 信者たちには聖霊が与えられている。よって、彼らは真理を直感的に理解している。
4. イエスがキリストであることを信じる者たちは、イエスとひとつである父なる神をも信じている。よって、彼らは三位一体の神の交わりに入れられている。

### §2 救いに関する3つの検証(2:3-29)[その4]

#### 3. 神学的検証: 御子への信仰(2:18-29)

##### 3-2. 使徒たちの教えを心に留める(2:24-25)

2:24 あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどませなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。

1. 23節では、イエスがキリストであることを否定する者(偽教師たち)は、御父を持っていないと教えられていた。
2. 異端の教えを広める偽教師たちに惑わされないために、ヨハネは「初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどませなさい」と教えている。
  - (1) 「初めから聞いたこと」とは、読者たちが元々から聞いてきた教えのことである。すなわち、使徒たちの教えである。
  - (2) 使徒たちは、イエスがキリストであるという福音のメッセージを伝え、それを中心にして様々なことを教えていた。
3. 使徒たちの教えを心に留まらせるなら、私たちは御子と御父の内に留まる。

- (1) 「とどまる *meneite*」には「住む」という意味もある（多くの英語訳がそのように訳している）。
  - (2) 信者が心に留めるべきは、目新しい今までと違った教えではなく、使徒たちが宣べ伝えてきた教えである。それを留めていれば、信者は御子と御父との交わりを心から楽しむことができる。
4. 現代の私たちにとっても、「使徒たちの教え」は重要である。それらの教えは、新約聖書に書かれている教えである。
- (1) 使徒たちの教えは、聖霊の導きの中で語られた。
  - (2) その教えは、やはり聖霊の導きの中で語られた旧約聖書の教えの延長にある。
  - (3) だから、私たちは、使徒たちの教えを自分たちの内に留まらせるために聖書に耳を傾け、その御言葉を自分たちの内に留まらせる必要がある。
  - (4) イザヤ書 40:8  
草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ。

#### 2:25 それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。

1. 「それ」とは、「初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです」という教えのことである。
2. 使徒たちの教えをとどめていれば、御子および御父の内に留まる。これはイエスご自身の約束であって、これこそが永遠のいのちである。
  - (1) 使徒たちは、メシアであるイエスを信じることにこそ希望があると教えていた。
  - (2) イエスは永遠の命について、次のように教えている。

ヨハネの福音書 3:15

それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。

ヨハネの福音書 17:3

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。
  - (3) 永遠の命とは、「使徒たちが伝えた神の御言葉を信じ、イエスこそ救い主だと受け入れることで御子および御父の内に留まること」である。

### 3-3. キリストの内に留まる(2:26-29)

2:26 私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。

1. ヨハネは2:18以降、偽教師たちが「多くの反キリスト」であることをこれまでよりも詳しく説明してきた。「以上のこと」とは、これまでの手紙全体や2:3-25というより、2:18以降と捉えた方が適切だと思われる<sup>1</sup>。

2:27 あなたがたの場合は、キリストから受けたそそぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教える必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。

1. 2:20で、既に読者たちに御霊（聖なる方からの注ぎの油）が与えられていることが教えられていた。ここでもそのことが強調されている。
  - (1) これまで2:12-14で、この手紙の読者たちはイエス・キリストの父なる神を信じるクリスチャンであり、救われているということがはっきりと示されていた。彼らと同じ信仰を持つ私たちもまた、聖霊を受けている。
  - (2) 「受けた *elabete*」は *lambanō* という動詞の第2アオリスト（不定過去）形である。ギリシャ語のアオリスト時制は、一度限りの動作を表現することがある。
  - (3) ヨハネによれば、信者が御霊を受けたということは「確実な経験」なのである<sup>2</sup>。
  - (4) この箇所は、信者の内には聖霊が与えられている（これを「聖霊の内住」という）と明確に教えている聖句のひとつである（他にヨハ14:16；ロマ5:5；Iコリ6:19；Iヨハ4:13などを参照）。
2. 聖霊は私たちに真理を示してください。
  - (1) 既に2:20で見たように、信者は聖霊の導きにより、真理を直感的に知ることができる。
  - (2) ヨハネの福音書16:13によれば、聖霊は信者を「すべての真理に導き入れ」て下さる。

<sup>1</sup> Cf. Brooke Foss Westcott, *The Epistles of St John: The Greek Text with Notes and Essays*, 3<sup>rd</sup> ed. (Cambridge and London: Macmillan and Co., 1892), p. 79.

<sup>2</sup> A. T. Robertson, *Word Pictures of the New Testament*, in PC Software e-Sword X (Rick Meyers, 2015) における I ヨハ 2:27 注解を参照。

(3) コリント人への手紙第一 2:9 によれば、聖霊が信者に与えられたことの目的のひとつは「恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るため」である。

3. ただし、「だれからも教える必要がありません」という表現の解釈には注意する必要がある。これは、教会における教師の必要性を否定している聖句ではない。

(1) 手紙の文脈に基づけば、これは偽教師たちの教えるは必要ないという宣言である。

(2) 使徒たちの教えるは、キリストから直接受けた、もしくは聖霊を通して神から受けた教えるである。

(3) すなわち、この「教える」とは人間の考えから作り出された教えるであると思われる<sup>3</sup>。

(4) パウロはローマ人への手紙 12:7 で「教師」という聖霊の賜物について言及している（他にも I コリ 12:28-29 およびエペ 4:11 を参照）。

(5) 神が教会の中に「教師」という賜物をお与えになったということは、聖霊はそのような賜物を持った人を通して真理を教えられる、ということである<sup>4</sup>。

4. 聖霊の働きの本質は、イエスの栄光を現すことである（ヨハ 16:14）。

(1) 聖霊が私たちに真理を教えてください、イエスの栄光が現されるためである。

(2) そのために、聖霊は私たちがキリストの内にとどまることを教えてください。

5. これまでのヨハネの教えるによれば、信者が異端の教えるから身を守る術は以下の2つである。

(1) 使徒たちの教えるを自分たちの内に留まらせること。

(2) 聖霊が教えてください、キリストの内にとどまること。

**2:28 そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現れるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るということのないためです。**

1. ヨハネは、先ほどに続いてキリストの内にとどまることの大切さを強調している。

(1) イエスもまた「私にとどまりなさい」と教えられた。ヨハネは福音書の中でこれを伝えている。

ヨハネの福音書 15:4-5

<sup>3</sup> Glenn W. Barker, *1 John, The Expositor's Bible Commentary*, Vol. 12, Frank E. Gaebelin, ed. (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1981), p. 327.

<sup>4</sup> Arnold G. Fruchtenbaum, "The Ministries of the Holy Spirit," *The Messianic Bible Study Collection*, #066 (San Antonio, TX: Ariel Ministries, 2005[1985]), p. 36. また、F・F・ブルース『新約聖書注解シリーズ エペソ人への手紙』山岸登記（伝道出版社、1989年）143頁も参照のこと。

4節:わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

5節:わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

- (2) イエスご自身の教えによれば、イエスに留まるということは、信者の善い行いと結びつけられている。
  - (3) また、福音書 15:9 では「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい」と言われている。おそらく、イエスにとって、イエスに留まるということはイエスの愛に留まるということと等しいであろう。
  - (4) イエスの愛に留まることはイエスに留まることであり、イエスに留まることは、イエスの父なる神の内に留まることである（ヨハ 14:10「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられる」）。
  - (5) イエスの愛に留まるのが具体的に現れる行為が、「イエスの掟を守ること」である（§2 救いに関する3つの検証(2:3-29)[その1] 参照）。イエスに留まることこそが、私たちの行いが変えられていくことの鍵である。
2. イエスに留まっていれば、イエスが再臨される時、「信頼を持ち」、「御前で恥じ入ること」はない。
- (1) 「信頼」はギリシャ語で *parrēsian* であり、本来は「自由に語ることができる状態」や「躊躇なく語ることができる状態」を表す。英語訳の American Standard Version では **boldness**（大胆さ）、New American Standard Bible では **confidence**（自信）という意味である。
  - (2) イエスの再臨の時に「信頼を持つ」とは、イエスの御前で、確信と大胆さを持つことができるということである（ヘブ 4:16 および 10:19 参照）。
  - (3) また、「恥じ入る *aischunthōmen*」には「恥で覆われる」という意味がある。
  - (4) 私たちが持っているイエス・キリストの再臨への希望、そして実際にイエスが来られたときの喜びと大胆さが増していくために、イエスに留まることは重要なのである。なぜなら、イエスに留まることで、私たちの行いは御心に沿ったものへと変えられていくからである。

2:29 もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずだ。

1. 信者は、神が正しい方であると直感的に知っている。
  - (1) 原文では、「彼は正しい方であると知っているなら……」となっている。新共同訳では、「御子が正しい方だと知っているなら」と訳されている。
  - (2) しかし、御子と御父は一つであり、御子も御父も、唯一なる神（ヤハウエ）である。ヨハネは、御子と御父の区別をさほど意識していないのかもしれない（1:1-4 参照）。
  - (3) 信者は、イエスも父なる神も、「正しい方」だと「知っている」。「知っている *eidēte*」は、直感的に知っている、ということを意味している。
  
2. 神は「正しい方」である。
  - (1) 「正しい *dikaios*」には、「人の、あるいは神の法に従うこと」、また「あるべき姿であること」という意味がある。
  - (2) 御父も御子も、人を愛されたが、人の罪を赦すためにはご自身の律法に従われた。御父は、ご自分の「正しさ」が満たされた上で私たちをお赦しになるため、御子を死に渡された。御子は、私たちをお赦しになるため、自ら神の律法に完全に従われた。
  - (3) 御父も御子も、神の法に従い、また神としての「あるべき姿」を変えておられない、「正しい方」である。
  - (4) 私たちは、神がそのような完全なお方であることを直感的に知っている。
  
3. 「義を行う者」とは誰か？
  - (1) 「義 *dikaioynē*」とは、*dikaios* の状態にある人を指す。つまり、「義を行う者」とは、神の法（すなわち、神の言葉）に従っており、人としての「あるべき姿」にある者ということである。
  - (2) 私たちの「あるべき姿」とは何か。私たちは、「神にかたどって」創造された（創 1:27）。そして、「御子は、見えない神の姿」である（コロ 1:15）。
  - (3) 私たちがキリストに似た者へと変えられていく（Iヨハ 3:2）のは、神が望んでおられる、人間としての「あるべき姿」に変えられていくということである。
  - (4) すなわち、「義を行う者」とは、第一にイエス・キリストの十字架と復活を受け入れており、第二に神の言葉を守っており、第三に「あるべき姿」に（変えられていく途上に）ある者だと言うことができる。

4. 私たちは、神が正しい方だと直感的に知っているが故に、義を行う者は神から生まれるのだと理解している。

(1) 神の正しさから照ら合わせれば、この地上には「義人はいない。ひとりもない」(ロマ 3:10)。

(2) 私たちの信仰ですら、神から一方的な恵みにより与えられたものである(エペ 2:8)。

(3) ということは、肉体的に生まれた者の中では、イエス以外には義なる者は一人もいない、ということになる。

(4) したがって、義を行う者(神の言葉を守る者)になるには、神によって新しく生まれなければならない。

ヨハネの福音書 3:3

**イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」**

(5) これまで「義を行う者がみな神から生まれた」ということを論理的に確認してきたが、私たちは神の完璧な「正しさ」を知っているので、信者は新しく生まれたのだということを経験的に理解しているのである。

## §2 のまとめ

1. 人は、神の御言葉を守ることによって、救われていることが証明される。
2. 人は、兄弟を愛することによって、救われていることが証明される。
3. 人は、イエスを神の子として信じていることによって、救われていることが証明される。
4. 以上の1. ~3. のどれも、人の側に責任があることだが、神の助けがなければできないことである。
5. 信仰は神から与えられるものであり、神は私たちが完成へと導いてくださる(1 コリ 1:8)。
6. この手紙に含まれている教えや勧めは、「私たちは救われている」という平安があってこそ素直に受け取ることができるのかもしれない。
  - (1) 私たちはイエスを神の子として信じたので、救われている。
  - (2) 神は私たちが完成へと導いてくださる。
  - (3) だからこそ、神の御言葉を守り、兄弟を愛することについても、神の助けを信じ、安心してチャレンジしていくことができる。